

# 群馬県の文化の限りない可能性

## 文化の広がり

- ・文化を広く捉えることで県民に身近な食文化や地域に埋もれている文化資産に焦点を当て、価値を再認識していくことにより、地域づくり、観光振興、イメージアップ、絆づくりにつなげていきます。

### ○文化振興の意義

文化は、人々が真にゆとりと潤いを実感できる心豊かな生活を実現していく上で不可欠なものであると同時に、個人としての、また様々なコミュニティの構成員としての誇りやアイデンティティを形成する、何物にも代え難い心のよりどころとなるものであって、県民全体の社会的財産です。

また、文化は、創造的な経済活動の源泉であるとともに、人々を惹き付ける魅力や社会への影響力をもつ「ソフトパワー」であり、持続的な経済発展の基盤ともなることから、本県の県力を高めるものとして位置付けておかなければならないものです。

### ○成熟社会における成長の源泉

文化は、その性質上、市場のみで資金調達が困難な分野も多く存在し、多様な文化の発展を促すためには公的支援を必要とします。同時に、文化は、周辺ビジネスへの波及効果、将来世代のために継承すべき価値、コミュニティへの教育価値といった社会的便益（外部性）を有する公共財です。

また、文化は、子ども・若者や高齢者、障害者、失業者、在留外国人等にも社会参加の機会をひらく社会的基盤となり得るものであり、昨今、そのような社会的な機能も注目されつつあります。

このような認識のもと、従来の社会的費用として捉える向きもあった文化への公的支援に関する考え方を転換し、社会的必要性に基づく戦略的な投資として捉え直します。成熟社会における新たな成長分野として潜在力を喚起するとともに、社会関係資本の増大を図る観点から、公共政策としての位置付けを明確化にします。

文化は、過去から未来へと受け継がれる県民共有の財産であり、その継承と変化の中で新たな価値を生み出すものです。政策として文化振興を図る際には、こうした文化の特性を踏まえ、短期的な経済的効率性を一律に求めるのではなく、長期的かつ継続的な視点に立って施策を講ずる必要があります。

### ○文化振興の波及力

人々の営みそのものである文化は、もとより広く社会への波及力を有しており、従来、教育、福祉、まちづくり、観光・産業など幅広い分野との関連性が意識されてきました。

文化は、様々な分野において創造性を核とする取組に大きく寄与するものであり、伝統文化からメディア芸術やデザイン、ファッション、食文化、観光まで多彩な文化を積極的に県内外に発信するとともに、その価値を生み出す創造的人材の育成・集積を図る必要があります。

グローバル化が急速に進展する中、国際交流を推進するにあたっては、本県の存立基盤たる文化的アイデンティティを保持するとともに、国内外の文化的な多様性を促進する観点も重要です。

## <群馬が全国に誇る、限りない可能性を秘めた文化資産>

### ○郷土かるた王国群馬

数多くの市町村かるた等があり（約120種類）、その数は全国の約1割を占め、最多です。その中には、日本一の市町村かるたである「富士見かるた」をはじめ、太田かるた、嬬恋かるた、沼田かるたなど、数十年にわたってかるた競技大会が開催されているものが数多くあります。上毛かるたやこれら市町村の競技大会等の存在も加味すると、群馬県は全国の50%以上の比重を持つ、まさに「日本一の郷土かるた文化県と言えます。

上毛かるたを含め、「日本一の郷土かるた文化県群馬」、「郷土かるた王国群馬」といった観点から、群馬県の特徴的現代文化を振興し、その文化的価値を再認識し、全国・世界に向けて発信していく。

### ○高崎の獅子舞

### ○粉食文化と郷土料理

### ○温泉文化

群馬県は日本一の温泉王国。温泉地は約100か所もあり、1000年以上の歴史を持つ古湯もあります。9種類の泉質と種類が多いのも群馬の温泉の特徴です。

自噴湧出量日本一の草津温泉や、情緒あふれる石段の湯の町、伊香保温泉。利根川の渓谷が美しい水上温泉や、「国民保養温泉地」第1号で昭和レトロな街並みが人気の四万温泉、温泉ファンあこがれの秘湯、標高1800mにある温泉、川で楽しめる温泉など、個性豊かなところがたくさんあります。

特に草津温泉は、「日本三名泉」、「日本三大薬泉」にも数えられ、源泉温度は90度以上、湧出量ともに県内一、酸性度も強い温泉で、全国の旅行業者らが選ぶ温泉地ランキング平成23年の「第25回にっぽんの温泉100選」（観光経済新聞社主催）で9年連続の1位と高い評価を得ています。

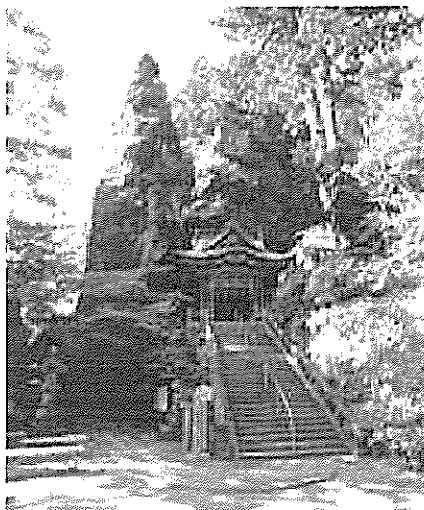


自噴湧出量日本一を誇る「草津温泉」

尾瀬は、我が国を代表する美しい風景と貴重な生態系を有し、また、日本の自然保護活動の原点ともいわれています。

◆群馬県の子どもたちが一度は尾瀬を訪れて、質の高い自然体験を通して、自然の美しさ、厳しさ、守ることの大切さを学び、子どもたちの豊かな感性や自然保護の意識、さらにふるさとを愛する心を育もうと、平成20年度から県内の小中学生を対象とした「尾瀬学校」を実施しています。

◆平成22年度では143校、約1万1千人の児童生徒が参加し、尾瀬の素晴らしい自然を体験するとともに、尾瀬の自然を守る取組を学んでいます。



パワースポットでも有名な榛名神社

#### ○ジョウモウ大学

ジョウモウ大学は、「群馬を世界中に自慢したくなる街に」をテーマに、群馬県内の公共施設やカフェ、公園などいろいろな場所をキャンパスに“授業”を開催する市民の“大学”です。大学といっても入学金や授業料は一切かからず、入学試験もない、群馬を愛する人なら誰でも生徒や先生になれる自由な大学です。開催される授業は大人気です。

# 群馬県が目指すべき文化行政の方向性

---

## 基本理念

心豊かな文化にあふれた活力ある「文化県群馬」の実現を目指し、  
先人から受け継いできた「群馬の限りない可能性」を大きくはばたかせる

### <基本理念の考え方>

今日、社会環境、経済状況等の変化により人と人、人と地域とのつながりが希薄になってきています。このような環境の中、県民による主体的で多様な文化活動を尊重することを基本として、文化の振興、文化を通じた人づくり、文化資産の保存及び活用などを図っていくことは、郷土への誇りと愛着を深め、心豊かな活力ある地域社会の形成につながるものです。本県の文化を取り巻く環境が大きく変化する中、昭和56年3月に県議会で議決された「文化県群馬」宣言の精神を引き継ぎ、群馬県が目指すべき文化行政の方向を示します。

## 基本目標

### 1 自主性、創造性及び多様性の尊重

文化を創造し、享受することが人の生まれながらの権利であることを踏まえ、文化活動を行う者又は文化活動を行う団体の自主性、創造性、多様性を十分に尊重します。

### 2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備

文化活動が県民に喜びや感動、潤いを与えること、文化活動が地域の活性化につながるものであることを踏まえ、県民が等しく、文化を鑑賞し、文化活動に参加し、文化の創造を行うことができるような環境の整備を図ります。

### 3 県民の文化活動の支援体制の充実

県民の文化活動が継続的に行われるべきものであることを踏まえ、県民の文化活動が活発に行われるような支援体制の充実を図ります。

### 4 文化の継承及び発展を担う人材の育成

文化活動が子どもたちの豊かな心を育成することや、地域の支え合う力を維持することなどを踏まえ、文化の継承・発展を担う人材の育成を図ります。

### 5 文化資産の保存及び活用

豊かな自然と、歴史風土に培われてきた地域における文化資産が、県民の貴重な財産として育まれて、将来にわたり引き継がれるべきものであることを踏まえ、文化資産の保存・活用を図ります。

### 6 情報の発信及び文化交流の促進

文化活動が国内外の人と人、地域と地域の相互理解を深めるために重要な役割を果たすものであることを踏まえ、多様な文化との交流に努めるとともに、文化に関する情報の発信を進めます。

### 7 推進体制の整備

市町村、民間の団体、企業、研究教育機関等と連携した文化振興施策の総合的な推進体制を整備します。

# 指針の推進に当たっての考え方

## 1 県民等との協調

文化振興指針の推進に当たっては、県民、市町村、大学、企業等との連携が不可欠であり、文化振興指針を総合的かつ効果的に実施するため、県民目線の文化振興施策の推進に取り組みます。

また、学識経験を有する方や文化活動を行っている方などにより群馬県文化審議会を組織し、県民意見を文化振興施策に反映させます。

## 2 長期的・広域的な視点での推進

本県の現状と県民ニーズ、時代の潮流を踏まえた長期的な展望に基づき、計画期間（5年間）に実施する文化振興施策の目標・方向を示します。また、地方分権の進展により、県、市町村の役割が変わりつつあることを踏まえ、市町村と協力・連携しながら、広域的な視点で文化振興施策の推進に取り組みます。

## 3 実効性の確保

- ・文化振興指針で示す文化振興施策を着実に実施していくため、群馬県文化振興基金を設置しました。
- ~~・各施策を総合的・効果的に行うため、群馬県文化審議会において基金の使い途について評価・検証などを行います。~~
- ・文化活動への支援プログラムの立案や実施、支援策の評価等を行う専門機関（群馬版アーツカウンシル）の設置に向けた検討を行います。
- ・文化振興基金への寄附の充実を図るため、寄附の活性化に向けた県民からの寄附金と同程度の額を基金に積み立てる「寄附同額県費積立制度」等の導入を検討を行います。

### ○横断的かつ総合的な施策の実施

文化が広く社会への波及力を有することを考慮し、教育、福祉、地域振興や観光・産業振興、国際交流など他分野との連携を踏まえた横断的な文化振興施策の実施が求められます。このため、庁内関係課との連携をより一層強化するとともに、関係機関、関係団体等の協力を促進し、文化振興施策の総合的な推進を図ります。

### ○計画、実行、検証、改善（PDCA）サイクルの確立等

指針に基づく文化振興施策の着実かつ継続的な実施を図るとともに、県民への説明責任の向上に資するため、重点施策に係る計画、実行、検証、改善（PDCA）サイクルを確立し、各施策の進捗状況を点検するとともに不断の改善を図ります。

文化審議会において、重点施策の進捗状況を年度ごとに点検することとし、併せて有効な評価・検証手法の確立に努めるとともに、企画立案等にも必要な基礎的データの収集、及び中長期的な影響・効果の測定手法など各種調査研究の充実を図ります。